熊毛教育事務所だより

熊毛の碧

（くまげのみどり）　令和６年　12月発行

【ブラッシュアップ熊毛】
熊毛のポテンシャルを生かした心を
動かす教育の推進
～熊毛の子は熊毛で育てる～

「風に向かって立つ」

熊毛教育事務所　所長　宮内　隆靖

熊毛地区には，「よい馬は，風に向かって立つ。」という言葉があり，管内には，教育目標に取り入れている学校もある。この言葉は，児童生徒が困難に負けずに向かって行く姿，何とか踏ん張っている姿をイメージさせるもので，私にとって好きな言葉の一つになっている。

初めてこの言葉を聞いた時，令和６年２月の鹿児島県教育振興基本計画に示された，「ともに未来をつくる」と令和３年1月の中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」に示された，「自立した学習者」の二つのキーワードが思い起こされ，つながりを感じた。それはなぜか。

まず，「ともに未来をつくる」については，今回の基本計画で「未来を担う」から変わった部分であり，求められる児童生徒観が変わったとも言える。ともに未来をつくるために，児童生徒にどのような資質・能力が求められるのかという課題意識に対する答えの一つとして，学びに向かう力やレジリエンスなどの，困難に直面しても自ら進んでいく力が思い浮かびイメージが重なったのである。

また，「自立した学習者」については，県教委が，「学習者主体の授業」をプロジェクトとして推進しており，児童生徒が自律的に学びを深め，自立した学習者として育つための方法の一つとして，単元内自由進度学習などの実践に取り組んでいる学校も出てきた。自立的な学習者としての児童生徒が，課題に向かって懸命に取り組む姿が，私にはこの言葉に重なって見えたのである。

児童生徒が自立した学習者として，大人とともに未来をつくるような資質・能力を身に付けるために，私たち教師は，学びを押し付けるのではなく，児童生徒の興味・関心に応じて学びを深めていけるように授業をデザインしなければならない。それを支えるのは，やはり教材研究や一人一台端末の活用など教師の学びという不易の部分である。その一方で，教師が授業や教材研究に集中できるような環境づくりも急がねばならない。

風に向かって立つのは，なかなか容易ではない。自立した学習者として，ともに未来をつくるために，常に自問自答する自分でありたい。

【ブラッシュアップ熊毛（熊毛の教育グランドデザイン）】

※　一部抜粋（全体像は二次元コード）

地　区　の 基 本 方 針	熊毛のポテンシャルを生かした心を動かす教育の推進 ～　熊毛の子は熊毛で育てる　～

ブラッシュアップ熊毛

歴史・伝統・文化を未来へつなぐ（郷土を誇りに）

「つなぐ－寄り添う－そろえる」の3つの視点に基づく
「心を動かす」関わりを通して，「やればできる」という心を育む
～　学校・家庭・地域社会の協働による働き掛け　～

内なる力に気付き自他のよさを生かす（人権感覚）

熊毛地区のＤＸ 次の段階を見通して･･･

「この使い方は子供の学びが深まった」，「この活動はアナログの方がよいかな」など，使ってみないと実感できなかった１人１台端末活用の感想が，それぞれの教職員にあるのではないでしょうか。学びの羅針盤（令和６年度版pp.10-11）に第３段階を見通したＩＣＴ活用について示されています。端末を使うことが当たり前の未来を生きる子供たちのために，今，自分の学校や自分自身は，どの段階にあり，どのような改善が必要か，具体策を考えていきましょう。

【家庭学習での端末活用工夫例】

端末の持ち帰り，日常的にできているでしょうか。破損や全ての家庭にWi-Fi環境がないことなどの理由もあるようですが，家庭学習こそ主体的な学びです。そのようなときは，まず，県域アカウント（kago.）の活用から始めてみませんか。家庭生活で，児童生徒が「この前の授業で習ったのはこれか！」，「授業の課題解決につながりそう！」と思った時に，持ち帰った端末で，Wi-Fi環境がない場合は携帯などで，撮った写真や動画を個人のドライブに入れておけば，授業中に活用できます。共有フォルダで学習成果を共有することも可能です。

子供の学びと教師の学びは相似形
～教師の学びも「主体的・対話的で深い学び」の実現を～

「学習者主体」という言葉は，様々な場所で聞かれ，意識して授業設計をしている教職員も増えてきているのではないでしょうか。

- 子供の言葉で学習課題等を設定
- 共通課題だけでなく個人課題を設定
- 自分に適した方法や人数で課題解決
- 自分なりのまとめと新たな課題の発見

など，様々な工夫が考えられます。

では，教職員にとって学びの場である「研修」は，学習者主体（研修者主体）となっているでしょうか。

令和６年度全国学力・学習状況調査では，「学習活動を学ぶ校内研修の実施」や「教職員が自らの専門性を高めるための研究会等への参加」の肯定的な回答は，全国平均より大きく上回っているものの，実際の研修では改善が必要な研修も散見されます。そこで，熊毛地区主催の管理職研修会から研修観の転換を図ることとし，熊毛地区小・中学校校長（教頭）研修会が研修者主体となるように工夫して実施しています。

各学校の校内研修も研修者主体となっているか，見直しを図り，より学びの多い研修となるよう工夫をお願いします。

【地区管理職研修会等の改善例】

① 会順の中にイントロダクションの時間を設定し，個人課題を記述・共有する。
② 研究協議の班を多様な意見が出るよう意図的かつ少人数で編成し，対話により学びを深められるようにする。
③ 研究協議の際に，他班と合流したり，班を離れて質問したりするなど，協議の形態を選択できるようにする。
④ 会順の中にリフレクションの時間を設定し，個人の「前進できたこと」や「新たな課題」を記述・共有する。
⑤ アンケートの質問事項を研修者が自分の学びを振り返る内容にする。
⑥ 第１回研修会の協議内容を第２回研修会につなげる。

年末年始等における綱紀の保持等（自分事として）

今年度は，わいせつ行為やハラスメント行為をはじめ，体罰や不適切な指導，飲酒運転，速度超過などが相次いで発生しており，本県の教育に対する信頼を著しく損なう危機的状況となっています。

令和６年12月２日付け鹿教教第380号通知のとおり，不祥事根絶委員会による提言の趣旨を再確認しつつ，社会通念の変化等に応じた意識の更新を図り，信頼回復に努めていきましょう。

令和６年度全国学力・学習状況調査結果分析から

学力・学習状況調査の鹿児島県の分析が公表されました。結果以上に注目したいのは，考察の分析結果のポイントや授業改善のポイントです。それらのポイントを基に，自分の授業はどのような改善が必要なのか，それぞれが児童生徒に応じた具体策を講じることが大切です。児童生徒の現在の資質・能力で結果を捉えるのではなく，今以上に資質・能力を育むため，不断の授業改善に努めましょう。

【令和６年度全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析】